

## 平成25年度第1回学校給食用食器検討委員会会議録

日時 平成25年10月22日

午後3時～4時15分

場所 給食センター会議室

(事務局)

定刻になりましたので、委員会を始めさせていただきます。

本日はお忙しい中、平成25年度第1回目の江別市学校給食用食器検討委員会にお集まりいただきましてありがとうございます。

私は当委員会の事務局を務めております、給食センター長の福井と申します。どうぞよろしく願いいたします。また、隣は佐藤業務係長です。

(業務係長)

佐藤でございます。よろしく願いいたします。

(事務局)

今年、人事異動や役員交代があったため、4名の委員が新たに補充委員として就任されておりますので、当委員会について、若干説明をさせていただきます。

学校給食用食器検討委員会は、委員12名をもって組織しておりまして、児童及び生徒に対し、安心して提供できる学校給食用食器の選定について検討するため、学校給食用食器の安全性等に関する調査審議を行い、食器の更新、選定について教育委員会に意見・提言等を述べることを目的としております。

昨年開催されました委員会の検討内容につきましては、後程経過を説明いたしますが、2月から10月まで6回の委員会を開催し、小皿を強化磁器とすることで教育委員会に意見を提出し承認され、今年3月に購入いたしまして4月から学校で使用しております。

今回は、前回の検討委員会で結論が出なかった箸について決定するため、委員会を開催するものであります。

それでは、次第の2番目ですが、新任の委員がいらっしゃいますので、順に自己紹介をお願いいたします。

(各委員、自己紹介)

(事務局)

ありがとうございました。

続きまして、委員長・副委員長の選出でございますが、どなたかご提案はございますでしょうか。

(各委員より特に提案無し)

では事務局案としまして、委員長は上江別小学校の小島校長先生に、副委員長は江別市PTA連合会会長の林大輔様をお願いしたいと思いますが、委員の皆さんいかがでしょうか。ご賛同いただけましたら、拍手をお願いしたいと思います。

(拍手多数)

それでは小島校長先生に委員長を、林会長に副委員長をお願いいたしたいと思います。  
次第の4番目委員長・副委員長より一言ずつ挨拶を頂戴したいと思います。  
よろしくお願いいたします。

(委員長)

あらためましてこんにちは。上江別小学校の校長の小島といいます。上江別小学校は2年目に入りました。前任は北広島市の若葉小学校にいました。今は学校統合で双葉小学校になっています。北広島市の校長会にいたときも給食検討委員をしていましたので、今回この食器検討委員に就任することになりまして、給食に縁があるなど思っております。子どもたちの毎日食べる給食に関わるものだとということで、子どもたちのために良い話し合いになればと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

(副委員長)

副委員長に任命されました林と申します。先ほどの挨拶の中でも申し上げましたが、食も含めて扱う仕事をしておりますので、少しでも力になればと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

(事務局)

ありがとうございました。

それでは、この後の議事からは、委員長の進行でよろしくお願いいたします。

(委員長)

それでは、議事に入る前に、この検討委員会は前回まで全て公開とし、希望する傍聴者の方には入室していただき、また会議録もホームページに掲載しております。

今回の検討委員会も同様に公開とし、会議録をホームページに掲載いたしたいので、委員の皆さんの了解を得たいと思いますが、よろしいですか。

(委員一同) 了解

(委員長)

了解をいただきましたので、傍聴者の方がいらっしゃるようでしたら、入室していただいでください。(現時点で傍聴希望者なし)

それでは議事に入ります。まず次第の5説明・確認事項の(1)『昨年の委員会における箸の検討について』事務局から説明願います。

(事務局)

私から前回の検討委員会の経過で、箸について説明させていただきます。

新任の委員の方にも前回の検討概要をお送りしておりますので、簡単な説明にとどめたいと思います。

第2回の委員会では、道内の共同調理場における箸の材質に関する調査結果に基づき検討いたしまして、この時点でプラスチックのポリエチレンテレフタレート(通称PET)製の箸と竹箸の二つに絞って、安全性等の資料の提示を待って検討することとなりました。

第3回では、メーカーから取り寄せた資料の説明を行いました。委員からは抗菌剤イオンピュアの安全データシートの提出及び充填剤の非公開の理由の確認等要望が出されました。

また、『子どもの健康と環境を守る会』から日本製の竹箸のサンプルが提示され、コストに関する議論がなされました。

給食センターから竹箸の曲がり懸念されるため実際に洗浄、乾燥してみたいとの提案が出され承認されております。

第4回では、PET箸の材質である充填剤について、公開できないとの回答が報告されたため、成分を把握できないことは問題があるとの意見が出されております。

竹箸については、ささくれ・ざらざら感が気になるとの意見が出されました。

その後、両方の箸について議論された後、結論として、充填剤の非公開理由の確認をすることになりました。

竹箸については洗浄・乾燥のみではなく給食で使用するとし、期間は夏休み前までとしました。

第5回では、PET箸の材質である充填剤について、企業秘密であるため公開できないとの回答が報告されました。

約2か月試しに使用した竹箸についての感想につきましては、2か月洗浄・乾燥しても最初に持った時と感触に変わりはない。手触りもいいと思う。特に問題は感じない。反りも使うのに問題ないと思うなどの肯定的な感想が出されています。

一方、ささくれは気にならなくなったが、食材による着色が気になる。変色と反りが気になった。という感想があり、同じ箸を見ても異なる感想となっていました。

意見として、安全を優先するのであれば、多少価格が高くなっても竹がいいと思う。竹箸には不安なものが一切使われてなくて安全ということであれば、経済的なことや現場のことを考慮しても子どもたちの安全ということであれば竹箸を使った方がいいと思う。といった意見が出され、竹箸に不安を感じるという意見では、竹箸の表面にニスなどの加工がされていないので、洗剤分や食べ物の染み込みが気になる。2か月使って先の方に染みがついているので、1年間使うとどれくらいになるか気になるといった意見がありました。

別な意見として、安全を第一に考えるのであれば竹箸でいいと思うが、PET箸になったとしても、不安があるご家庭については、マイ箸にするという次の方向を見通した取組もあると思う。といった意見も出されております。

そうした中で、1年間試しに試してみようという意見が出され、ある程度の試用結果が出た段階で結論を出すことで意見の一致がみられました。

これを踏まえて、本年4月から大麻小学校と江別第三中学校で試しに使ったものであります。

当初試用期間は1年間ということでしたが、それでは平成26年4月から新しい箸を使うことができなくなるので、半年間とさせていただきます。

この結果、小皿は強化磁器食器とし、箸については試用期間を設け、結果を見て竹箸かPET箸のどちらかに決定するとの意見をまとめ、教育長に報告をいたしております。

平成24年11月の定例教育委員会において、小皿を強化磁器にすることが承認されました。教育委員会からの意見として、今後の方向としては、箸の持参を勧めていたということをお伝えしておきます。

以上であります。

(委員長)

事務局から昨年までの委員会の検討内容の説明がありましたが、何かこの説明に関し質問はありますか。

(各委員) 質問なし

(委員長)

質問が無いようですので、説明・確認事項の(2)、先程6か月間の試用期間をもって判断するといった竹箸の確認についてですが、まず皆さんで実際手に取って実物を見ていただいて報告を受けるといったふうにするめたいのですが、よろしいですか。ではお立ちになって、どうぞご覧ください。

(各委員) 試用後の竹箸を手にとって確認

(委員長)

ご覧いただけましたか。また見たくになりましたらいつでもそばにありますから見てください。それでは、事務局から説明・確認事項の(3) 実際この竹箸を試用した大麻小学校と江別第三中学校からの感想・意見について及び(4)の竹箸の価格と製作期間及びPET箸の価格について説明願います。

(事務局)

お手元にお配りしております資料1 大麻小学校で竹箸を試用した感想、意見ということで、こちらはクラス毎にアンケート形式で5つの項目について記入していただきました。それぞれ1クラス1段でまとめさせていただいたものです。1番目、使いやすさということで、軽くて使いやすい等、竹箸が良いという意見が多数を占めているようですが、慣れたプラスチックの箸が良いというクラスもありました。2番目ささくれにつきましても気にならなかったという感想が多いですが、ささくれがあったという児童の感想と最後の段の担任以外の先生からは、最初の頃はささくれの破片がたくさん落ちていたという感想もありました。裏面には3の着色についても気にならなかったという感想が多い中、担任以外の先生の中には黒ずんでいる、着色があるとの感想があります。4の曲がりについても気にならなかった、なかったという感想が多い中、児童の一部と担任以外の先生の中に曲がってきているとの感想があります。その他では、歯型がついているとの感想や、竹箸にしてほしいとの意見とプラスチックがよいとの意見が両方ございます。

資料2、こちらは江別第三中学校からの意見・感想であります。いただいたものをそのままコピーしています。ささくれ、黒ずみ、曲りともに問題ないとの回答がほとんどですが、曲りについて、1、2年経過するとどうなるかが気になるとあります。その他の意見でも竹箸に肯定的な意見が6件ある中、プラスチックの方が清潔なような気がするとの意見も書いてあります。

続きまして、資料の3ですが、竹箸の価格と製作方法及びPET箸の価格についてです。当初①の税抜210円という価格を基に検討しておりましたが、実際に試用するための竹箸を1,000膳購入しますと1膳390円でした。今年度、箸を購入する場合、高い方の竹箸の価格で予算を確保する必要がありますので、昨年見積りを徴収したところ、11,000膳購入した場合1膳当たり320円でした。PET箸はこれより安いので、竹箸の単価で予算を確保しております。真ん中あたりに価格が高くなった理由を記載してありますが、入札の場合、仲介業者と指名業者を経て高額になり、また今年の資料にあった210円は卸売り単価でありました。

竹箸の製作期間ですが、今回確認したところ6か月を要するとの回答でございました。これから竹箸に決定した場合、教育委員会の承認を得て入札いたしますと、製作期間は3

か月程度しか確保できないというのが現状でございます。

一番下にPET箸の価格も記載しております。入札をしてみないとはっきりしませんが、11,000膳ですと通常定価200円の7掛け程度で購入できるとメーカーから聞いています。

説明は以上でございます。

(委員長)

事務局から説明がありました。まずは大麻小学校、江別第三中学校の試用した感想意見の概要、それから竹箸とPET箸の価格と製作期間の説明がありました。両方に関して質問ございますか。

(E委員)

小学校の感想は、クラス毎に書いていただいているようなのですが、先生が子どもたちに聞いて書き取ったという感想なのでしょうか。

(事務局)

見た感じそのようですね。学校にはどのようにやってほしいという細かいお願いまではせず、感想意見がございましたら提出するようお願いしました。

(E委員)

中学校も同じように先生が聞き取ったことをまとめたということで考えてよろしいですか。

(事務局)

はい、その通りです。

(E委員)

見た感じ小学校も中学校も概ね竹箸に問題ないというか、良いという声が多いような気がするのですが、気になったのは小学校で担任の先生以外でどちらかという竹箸を好まないような意見が沢山あるような気がします。これは担任の先生以外というのは職員室にいる担任を持っていない、子どもたちに接しない先生たちということなのですか。

(事務局)

私もあまり詳しくないので、校長先生いかがでしょうか。

(委員長)

担外ということですね。フリーの先生とか担任を持っていない先生とか。

(E委員)

そうですか。では子どもたちと直接接する機会があまりない先生たちということでしょうか。

(委員長)

いや、結構あるのではないのでしょうか。TTとか、補欠なども入りますから、まるっきり接触が無いという事はありません。

(E委員)

わかりました。ありがとうございました。

(委員長)

その他どうですか。いまのは大麻小、第三中の意見の取りまとめ方への質問でした。

(各委員) 質問なし

よろしいですか。また後で今の部分について質問等あれば説明いただきます。

それでは協議に入っていきたいと思います。経過は先程説明があったように6か月間試用して判断して竹箸かPET箸かという協議になりますが、実際私は今日初めて触れたのですが、6か月間試用した竹箸かPET箸かといったことでの意見を各委員さんからお願いしたいと思います。

感想等お聞きしてほとんどの大勢がどちらかになれば今日決めたいと思いますが、子どもたちの意見の中にも個々の意見があって分かれています。委員の意見もあまり分かれるようであれば、もう一回検討していくといったスタイルで進めて行きたいと思っています。

それでは各委員さんからご意見をお願いします。

(副委員長)

そもそも竹箸を候補にすることに至った理由はどういうことだったのでしょうか。資料だけでみると、コストは竹箸の方が高いにもかかわらず、これが選定のテーブルに挙がったということは何か理由があったということなのですか。

(事務局)

全道の1,000食以上の共同調理場から回答していただきまして、それをまとめたのが一番最初の資料でした。その中には竹箸やビリアンという固い木、何種類かのプラスチック箸がございました。それを参考に検討を進めていったのですが、例えばその資料にあった竹箸は安いですが、中国製でニス塗った竹箸でした。プラスチックの箸については素材がハッキリしない物もございました。そんな中、第2回委員会で子どもの健康と環境を守る会から、何も塗っていない竹箸の提案がございました。確かに価格は高かったのですが検討委員会の中では安全には替えられないというご意見もございまして、もちろん安い方が良いという考えもあるでしょうしそこら辺をどうするのかというのが問題となりました。PET箸については充填剤について企業秘密で非公開という部分が安全性を確保できないのではないか、というのが問題となりました。竹箸については価格ももちろんそうなのですが、ご覧いただいた部分が気になるということでした。それ以外の素材は議論の中で振り落とされて二つだけ残ったということです。それ以上新たな候補を入れますと収拾がつかないといいますか結論が出ない、つまり箸の更新時期に来ているのにずっとそのまま決まらないということになるので、途中まで残った二つのうちのどちらかにする。つまり、竹箸は高価ですけれど安全性ということで残ったということです。

(副委員長)

このPET箸というのは今までも使っている箸ですか。

(事務局)

今使っている箸は別なプラスチック製の素材のもので、平成19年に導入されたときに、触媒についてハッキリしないものが使われているという問題が提起されていまして、今回の検討の中では候補としていません。ただPET箸を候補に入れて、安全データシートなどを見ていく中で、また充填剤というものが問題視されてきたというのが経過です。

(委員長)

よろしいですか。

(副委員長)

わかりました。ありがとうございます。

(委員長)

私も会議録を見せていただいたのですけれども、やはり何回かいろいろな話になって、最後はここ半年使ってみて、決定しようとなっていました。ですからPET箸か竹箸かといったことで決めていきたいということです。

どうですか、半年を経た箸を手にとって、子どもたちの意見等々踏まえて。

(E委員)

今のこの状態を見せていただいたのと、多分小学校の方が子どもたちが噛んだりして結構歯形がついたりというのはあると思うのですが、中学校は噛んだものがなくて、食材による着色が多少あるというのは天然素材だから仕方がないことだと思います。実際、あまりひどい箸があればそれだけを取り替えるということも出来ると思います。PET箸の方は素材が企業秘密で明らかにできないということはやはり不安要素がそこに必ずついて回ると思います。ですから私としては子どもたちの感想も概ね良いようですし、いっぺんに全部取り替えるのではなくて傷んだものから順次取り替えるということが、多分手作業でやっていったらむしろそちらの方が良いと思うのですが、そういうふうにして使うことができますので竹箸の方が良いと思います。もう一つ安全性に加えて、国産の竹を使っています。国産の竹林というのは竹を常に伐採したりとかしていかないと守っていくことができないので、そういう環境を保全するというところにも貢献できるし、作ってらっしゃる職人の方、一人でやってらっしゃるということなのですが、やはり伝統的な職業を守っていくということにもつながっていくと思うので、食べ物を通してそれ以外のところにも思いを寄せることができるということがあると思います。ですから私は竹箸の方が良いと思います。

(委員長)

竹箸というご意見ですね。個人的な感想でいいと思います。

(H委員)

安全面で言うと確かに竹箸の方が安全だと思います。PET箸は前に意見があったとおり、一部の素材にどういったものが使われているのか不安だという話もあるのですが、気になるのがやはりコスト面です。11,000膳買った場合に竹箸は370万円で、PET箸は160万円です。竹箸はPET箸の倍くらいの値段になりますので、今は予算があるので買えたにしても、今後使っていくうえで、このコストに耐えていけるのかという不安があります。確かに着色やささくれなどは半年使用してもっと色が濃くなり、曲がってくると思っていたのですが、予想していたよりひどくはありませんでした。しかし、安全性も大事ですが、やはり費用対効果もかなり大事なのではないかとこのところで揺れています。

(副委員長)

PET箸の耐用年数はどれくらいですか。

(事務局)

プラスチックは一般的に概ね5年ということです。これは何か決まっているわけではないのですが、一般的にメーカーも5年程度とっています。年200回として、5年で1000回になりますので、それを耐用年数としています。1,000回使ったからどう変

わるというものではありません。プラスチックですから、素材によっては違うかもしれませんが、劣化していくという事実はあると思います。ただ、どの素材が何年と決まっているものではないので、検討委員会では皆さんの了解のもとに、当初からプラスチックは5年ということで考えています。従いまして、平成19年8月に購入しましたPEN食器及び箸は、平成24年の8月に5年を迎えるということで、小皿をPEN食器から強化磁器食器に替えました。ということで決まりはないのですけれどプラスチックは5年を目途ということで考えています。ですから5年間PET箸を使いますと、破損はほとんどありませんので5年で160万円です。竹箸の場合は昨年の委員会で年13%くらいの消耗といえますかはいいていく量ということで、これは大分県の方で実際同じ竹箸を使っていて、380食で年間50膳はじいているということで13%としています。ですから、2年目には11,000膳の13%で1,430膳補充することになります。2年目から5年目まで4年間補充するとしますと、4年で192万1920円となり、当初の369万6000円と合計すると、5年間で561万7920円になります。

問題は13%で良いかということが1つあるかもしれません。先ほどE委員ははじけばいいとおっしゃいましたが、これはセンター職員に確認したのですけれども、途中ではじいていけるかという問題です。センターで先に竹箸の状態を見ているのですが、毎年替えないといけないのではないかという意見もありました。箸の状態をみてはじいていくのが大変という事です。着色は濃いのもあれば薄いのもあるし、気にならないものもあります。個人の眼でどう判断するか非常に難しいと思います。どの程度の色になったらはじくか難しいです。もし毎年入れ替えということにしますと、5年間で1800万円になり10倍以上です。コスト的にはちょっと難しいと思います。

(委員長)

コスト的には厳しいという意見がありました。そこら辺も踏まえてご自身の意見を固めていただきたい。

(D委員)

今のコストの計算ですけれども、例えばプラスチックですと5年間たったら全部取り替えます。竹箸は13%ずつ交換していったとして5年後もそのまま使い続けられるという事ですよね。毎年まるまる300何万またかかるということではないですよ。

(事務局)

例えば10年経過した場合、13%ずつ交換すれば一回りします。5年分としてさらに200万くらい足すと10年間で760万をちょっと超えるでしょうか。10年間となりますと、竹箸が760万円でPET箸が320万円というコスト比較になりますか。

(D委員)

コスト面、予算面でどれくらい市が出せるのか、全く分からないのですが、安全面を考えると出してもえるものなら、是非、竹箸でお願いしたいと思います。

(事務局)

出せるかどうかという意味では、先程申し上げましたとおり、予算としては今年度竹箸を買えるように予算は確保してあります。ただ、これからどんなふうに変えていくかという点で、一回買って何年もつかという事は、コストの面では非常に重要な部分ではありません。どれくらいの期間で交換していくかという。5年使えるとすれば、いいのではないか



という意見がより多くなると思います。毎年替えなくてはならないということになれば、これはコストが高すぎるのではないかということにもなるかと思います。どこら辺で見極めるかという部分に難しさがあるという気がしています。いくら高くてもかまわないというものではないと思います。

(委員長)

永久に江別市は竹箸になるということでもないですよ。

(事務局)

プラスチックの場合5年で更新ということですから、プラスチックを使う限りは5年に1回は検討委員会を開催するということになります。ただ、会議録には残っているはずですが、私からのお願いとして、強化磁器にしても、事情が変わらないとは限らないので、何年かに1回は検討委員会を開いて協議していただきたい。プラスチックが導入されれば5年後更新ですけれども、竹箸になっても何年かに1回、最低でも5年に1回は検討委員会で、現状で問題ないかということも協議していただきたい。他にもっといいものが出てくる可能性もあります。竹箸になったから、補充していけばいいということではなく、協議していただきたい。

(委員長)

今後の研究で、安全なプラスチックが出てくるかもわかりませんからね。

いま、竹箸がいいのではないかという方の意見が2つ、それとまだちょっと悩んでいるといった方がいます。是非意見をどうぞ。

(F委員)

前にニス塗った竹箸を使用していたのですが、だいたい1年から1年半で全て交換していました。それに対し補充となりますと、当然わかりますように、色が全然違います。それで、今は別なプラスチック箸を使っています。PET箸は入っている充填剤が企業秘密ということで言われていますが、使いやすさとしては、私たち現場としては3期休みがあり、その時に専用の洗剤で落とすとだいたいくすみが出るものですから、そういう形で試用させてもらいましたので、実際この竹箸を使うと半年でこの状態なので、1年経って他に新しい物を入れるとなるとはっきり違ってきますので、できれば1年で全部廃棄又は2年使って廃棄するという方がいいかなと自分としては思っています。

(委員長)

そこら辺は使い方、廃棄の仕方というふうになると思うんですけど。

どちらが良いでしょう。

(F委員)

竹箸であれば、アンケートの中でも軽くて使いやすい、麺類の時には滑らないということと、安心・安全という点では竹箸でいいと思うのですが、今迷っています。

(委員長)

他のご意見もお願いします。判断がつかなければつかないでいいですからご意見を言ってください。

(A委員)

私は昨年度から委員会に出ているのですが、昨年度の話の中ではコストのことと安全面のことを天秤にかけて、安全面のことを優先させましょうというようなことが大きな柱に

なっていたように思いますので、そういうものの見方で考えます。大麻小学校と第三中学校の感想や意見を見てみると気になるところはささくれがあるか、書いてある子や、着色があるかちょっと汚れてきた感じがあるか、曲がってきている感じがある、歯形がついているというようなことですか、1、2年経過するとどうなるかとか、ごはんの時にひつつく感じがあるというようなちょっと気になるようなことが書いてあるのですが、相対的にみるとそう大きな問題点に当たらないと思いますので、昨年度からの経過からすると、私は竹箸でいった方が良いのではないかと考えます。

(委員長)

わかりました。その他、お願いします。

(B委員)

私は、箸にすごくお金がかかるなと思います。これからもっともっとかかるかもしれないのに、こんなに箸にお金をかけていいのかと思います。私は前から言っていますが、PET箸の充填剤について保護者に公表して、嫌な子は持参するということがよいと思います。これからいくらかかるかわからないことに、使っていくこともないのかなと思います。

(委員長)

コストといった点ですね。分からない部分は分からないと公表して気になる親は持参にするということですね。それは会議録にも以前載っていたと思います。

(B委員)

充填剤にしても箸を作る上での企業秘密であって、何か悪い物を使っているからということではないと思います。その辺を保護者にお知らせしてみることです。

(C委員)

アンケートを見る限りでは概ね使ってみた人たちも、そんなに悪い感じはしていないのではないかと思います。それが全てなのかなという感じはしています。あくまでもA委員がおっしゃられたとおりコストを省いてという話で、本来であれば、私たち民間で仕事をしている人間からみれば、コストを考えないということ自体ちょっと考えられません。でも、コストを全く考慮しなければ安全面を考えて竹で良いのかなという判断です。

(A委員)

ここの場で何を重点に考えていくのか、コストのことまで考えていくのか。私の認識としては一番これが良いですよというものを教育委員会に答申するものと考えます。教育委員会でそれを受けて、最終的には議会で承認を受けてということになっていくのですか。

(事務局)

ここで意見をまとめ、それを教育委員会に報告し、そこで承認を得られれば購入できます。議会に諮る金額ではありません。前の時はパブリックコメントもいただいたのですが、その後、パブコメに関する規定が出来まして、市の政策を定める計画や基本的な方針等を定める計画を策定しようとするときなどに対象が限定されましたので、パブコメは必要ないということになりました。ここでまとめた意見が教育委員会で承認されれば購入できるということになります。

(A委員)

それでは、この委員会でコスト面や安全面をトータルで考えていくのか、それとも安全

面だけで考えていくのか、あるいはコスト面だけで考えていくのか、それによって出す結論は違ってくると思います。

(事務局)

教育委員会ではこの委員会の意見を尊重します。前回はそうでしたが、色々な面を考えてこういう意見を出したというふうなまとめの文書に記載しております。ですから、そこにはコストを除いている訳ではないのです。一番安全なものはどれですかという選び方をしたいという訳ではありません。確かに子どもたちのためにより良いものをとというのは当然です。ただ、ものを買うのですから先程C委員もおっしゃいましたし、副委員長もそうだと思うのですけれども、コストを考えること無しで選ぶことは出来ません。これだけ大勢の方に集まって検討していただいているのですが、教育委員会ではこのように長い時間をかけて検討できません。1回で判断していただきますので、そういった意味ではこの中でコストも含めて判断をしていただく必要があります。基本的には、ここで決まったものに決まるのではないかと私は思います。給食は保護者からいただいている給食費だけでやっています。食器や食器具は各市町村が買うことになっていますが、当然これは税金から支出されているものですから、皆さんの負担という意味では変わりません。等分に負担しているわけではありませんが、所得に応じて保護者が支払っていることに変わりはないと思っています。

極論をいえば1万円だったら誰も相手にしないけど、この金額ならどうだろうというそこから辺の加減について十分検討していただかなければならないと思っています。

(委員長)

コスト面も含めてということになると我々もなかなか判断が難しいところがありますけれど、先程、A委員も言っていたのは子どもの安全をとったことで竹箸をとったので、その意見でいいと思います。

(E委員)

補足なのですが、そもそもこの会を持っていただくことになった経緯というのは、子どもたちが使う食べ物をのせる食器やお箸は、安全性の確かなものを使ってもらいたいということからでした。そこでもう一つ給食というのは食を通した教育の部分です。自分たちが使うものがどういうふうなものかということは、時間はないかもしれませんが、伝える機会になっていただきたいと思います。コストと言いますが、何千万円もかかるわけではないですし、これだけお金がかかっているということで、もしかすると給食をたべながらでも箸のはなしをすることも可能だと思うのです。だから大事に使おうねとか、物を大事にするということにもつながると思います。莫大なコストがかかるとは捉えてはいないので、とりあえず使ってみてもらい、先程言っていたように5年目に検討する機会があるのであればそれまでの間使ってみるということは、とても大事なことで私は思います。

(委員長)

補充意見ですね。あとお三方、ご意見をお聞きしたいのですけれど。

(G委員)

F委員と同じなのですが、学校からの使いやすいとかの意見もふまえ、見た目はそれほどではありませんが、現場で働いている者としては変色や小学校の歯形がちょっと気になります。このくらいだったらということもあるのですが、製作過程に日数を要するという

こともあり、耐用年数がどれくらいかわからないのですが、11000膳で半年かかるとなると、補充の際製作期間が気になるところです。PETの箸ならすぐ補充できると思うのですが、何とも言えない状況です。自分としては迷っています。

(J委員)

正直なところ迷っているというのが本音なのですが、竹箸を半年使った結果で、着色がちょっと気になります。これが1年とか使ったら更にどうなるのかという懸念があります。ただ先程からも意見がでていくように、はじいていくのは難しいと思います。補充していくと、きっとちょっと着色した箸ときれいな箸が混じってクラスに行く可能性もあると思います。そうすると、ただ一膳だけ見た場合にはあまり気にならないかもしれないけれど、まとまっていると着色が気になると思うので、子どもたちから汚れているのではないとか、そういう意見も出てこないとも限らないのではないかなと思います。もし換えるとしたら1年毎に全てを換えていく必要があると思うので、そうすると安全面で考えるといいと思いますが、コスト面で思うところがあります。

(委員長)

どちらかという、コストでPET寄りということですね。I委員はどうですか。

(I委員)

私も現場なのですが、色の違いとかが出てきますので個人的には1年、長くて一年半で全交換が妥当なのかなと思います。ただ金額のことに言えばこれだったらちょっと厳しいのかなという感じはします。PET箸の充填剤の成分が不明という点がありますけれども、まだ探せば他にあるのかなという気もしないでもない。昨年の委員会には出ていませんのでわかりませんが、探すのもまだ手なのかなという気はします。どちらかというのはまだ判断できません。

(委員長)

難しいですね。

(副委員長)

判断するのに材料が足りないと思っていまして、竹箸の方が安全で子どもたちが使いやすいのだったら基本的には竹箸の方が良いと思います。ただコストも無視できないということと、先程現場の皆さんからご意見が出ている代替の準備と伺いますか、そういった部分の問題は恐らく出てくるのだと思うのですが、この卸値210円で小売りが320円という100円以上の開きというのは何とかならないのかというのが第一印象です。仮に単価が210円となれば、コストの面はかなり圧縮されるという印象を受けるものですから。指名競争入札ということで市の契約上、難しい面はあるのかもしれませんが、その辺が努力できる余地があるのかどうかです。安く買えるのかというのが一つと、もう一つ、先程からPET箸が危険な箸のような言われ方をしていますが、危険なのですか。うちの子どもも毎日箸を使って食べていますけど、危険ならすぐ換えるべきだと思います。

(事務局)

危険という判断はされておられません。今使っている箸はPET箸とは違うのですが、危険だという証明はされておられません。これから選ぼうとしているPET箸については、そこに使われている材料が公開されていないから危険か安全か分からないということです。微妙なところなのですが、はっきりメーカーが教えてくれないからそれでは安全と言えな

いというご意見です。

(副委員長)

危険なのかどうかというところだと非常に誤解を招くと思います。プラスチックより木のぬくもりの箸を使わせたいのだということであれば、それは私も賛同するのですが、プラスチック箸があたかも危険みたいな話が独り歩きすると、仮にプラスチック箸を選ぶという決断を下した時に、危険なものを選んだのかというようなことにもなりかねないものですから、そのへん誤解の無いようにされた方が良いんじゃないかと思います。危険だということじゃないんでしょけど、不明だということはある程度理解すべきです。その上で木の方を子供たちに使わせてあげたいのだということであれば理解するのですが、自分の結論としては大変無責任ですけどいまのこの条件だけでは決めかねるところです。

(D委員)

補足したいのですが、PETの箸についてなぜ反対するかというと、私どもの団体というのはシックスクール対策として、化学物質過敏症の子ども達に対しての活動をしていた会なのです。子どもたちに使うものは、100%安全かどうかはわからないのですが、子どもによって色んなものに反応します。それで100%開示されたものを使わせたいということで活動しています。先ほどの補充した竹箸の色が違うとか、それはもちろん出てくると思うのですが、どうして色が違うのというときこそ、竹というのはこういうものなのか、自然の物だから色が違うとか、教育の機会ととらえて是非全部取り替えることは、使えるものを廃棄することは無いと思うので、ぜひ使っていただきたいです。以上です。

(委員長)

他に補足はありますか。無ければ、本当はこの委員会で白か黒かはっきりさせたいところなのですが、過去の検討委員会の流れをみると、最終的に結論を文書化したものを示して委員の皆さんの理解を得てから教育委員会へ提出するという段取りもあります。今日、あまりにも意見が分かれるようであればもう一度委員会を開催し、次の機会には今揺れている人たちもどちらかに意思決定していただきたいと思います。この場は先程事務局からお話があったように、直結して決めるという会議になるので、今日の流れから言うと、もう少し間を置いた方が良いでしょう。色々ご意見が出ました。竹箸の良い点、それからコストの面、安全面もクリアできるという意見もあったのですが、副委員長も委員長の私も今日初めて参加したということもありますので、ちょっと期間をおいてみたいと思います。事務局、いかがですか。

(事務局)

できればそのようにしていただき、11月上旬にでももう一度開催することとして、それまでに考えていただければと思います。副委員長のおっしゃる材料が足りないということにはお答えが出来なくて申し訳ありません。

(委員長)

去年の会議録で価格の比較とかありましたね。

(事務局)

委員長にお渡ししたものと同じものをお渡ししていますが、全てが記載されている訳で

はありません。

(委員長)

それでは少しクールダウンの期間をおいて、次回のはっきりと結論を出すということにしたいと思います。

(A委員)

判断がつかないと言われた方が何人かいらっしゃったのですが、皆さん竹箸の方がいいと思うのだけど、価格の面でどうなのかというのがはっきりしないから判断がつかないというふうに私は受け止めています。もしそうであれば次回このままの状態で開催を持って、恐らくまた判断がつかねると思うので、判断が着くようにいくらかかるのかということをはっきりと提示していただいた方が、判断しやすいと思います。マージンを削減できるのか出来ないのかとか、1年で全部入れ換えした場合いくらかかるのかとか、1年半で入れ換えした場合いくらかかるのかとか。コストをきちっと示して総合的に判断をしていくための資料が必要ではないかと思います。

(委員長)

今、A委員からコストを比較できるような資料を出してほしいとの意見ですが。

(事務局)

それでは、1年、1年半、2年で入れ替えた場合につきまして、先程D委員にも言われたのですが5年間の比較ですとその後使える竹箸の残存価格が抜けてしまうので、例えば10年とか長くしたらどうかも比較したものを、委員会が始まる前にお送りして、事前にそれを見ていただいて委員会に臨んでいただくということによろしいでしょうか。委員会開催日は、下旬の教育委員会には間に合わせたいものですからできれば11月上旬にしたいと思います。

(委員長)

私もそうですが、コストをイメージできていない人もいますので、資料をよろしくお願いします。

事務局から何かありますか。

(事務局)

日程調整の文書をファックスまたはメール送らせていただきますので、回答をよろしくお願いたします。

(委員長)

それでは長時間にわたり、お疲れ様でした。本日の委員会を終了いたします。